

昭和24年

七月十日 日曜

予科の試験も終わり閑散な日曜日。唯競馬場かよいの自動車が終日うるさかった。

七月十七日 日曜日 晴一時曇

朝起きると、快晴だ。小生は本橋君と銭函へ海水浴に行く。ギッシリつみ込められて、銭函に着く。すごい人出だ。本橋君はさすがに上手だ。スイスイと沖へ泳ぎだす。小生は胸の辺の深さの所で水泳の練習をする。時々本橋氏が来て指導してくれる。四時五十分の汽車で帰札する。舎でのたうち廻っているよりよほど結う有効であった。皆さんも今度行きましょう。色が黒くなってもよいじゃありませんか。ともかく今日は暑い日だ。恐らく今年中の最高温度であろう。夜九時頃で六号室は八十六度位あった。じっと勉強してるしかない。外へ出ると十丁目は大層な人ばかりである。花電車が走りまばゆいばかりに電球をつけて十五、六台来た。そのなかの一台では日本舞踊でにぎやかだ。アイスキャンデーも売り切れで吉田君、三角君とがっかりして帰舎した。舎では予科生が試験勉強で一生懸命だ。この暑さにお気の毒な次第だ。五号室では吉田君、大顔君が音楽乃友の書かれてある女の絵の美術的価値について競論している。ねるには暑過ぎるからこうしてだべっていた方がすこぶる快適である。貴公帰ってきた。外では歌声やピアノの音がきこえて楽しい。皆んないつになったら床につくのですか。暑いのもつらいですね。三角君が云いました「これから泳ぎに行こう」偉いかな。

七月十八日

忘れていたら、本日は小生の誕生日だった。今日は少し曇りがちで、昨日より少し、しのぎよいか。試験前の能率はかえって悪い。日中は皆、夫々によい格好で、肉体をさらけ出していた。恐らく気の弱いメッチエンが入って来たならば、必ずや卒倒するであろう。夜、松竹座で巖本真理のリサイタル。相馬、小原、飯田の三君出かける。三角、大顔の両君夫々山へ行く。一晚泊まりの予定。

七月十九日

久方振りの降雨で畠のものも生氣を取り戻した感じである。三角、大顔たと大威張り。

七月二十日

相変わらず天気良好なのに、平さん試験開始でお気の毒の至りである。

七月二十一日

中田君や小原君が昨日あたりからアルバイトに出掛けた様子。

七月二十二日

連日の暑さが次第に募って小母さんが次第に弱ね出した。夏位嫌なものはないそうだが冬も又嫌だそうだ。

七月二十四日

昨日は折内君が帰って来て長く顔を見せないでいた新人の諸君がそろそろ予科の連中に取って代わらんとしている。

七月二十六日

薪を積んだ馬車が通りしなに薪を宣伝して行った。小母さんが承諾したら、白樺の四尺位のが八〇〇本程馬車で四台忽ち持って来て、片付けるのに全員総出で片付けた。(但し、この記事は一週間位前のもの)

七月二十七日

山本君帰舎、山崎君帰舎。

七月二十八日

村瀬帰舎、新制大学入学式。

七月二十九日

新制大学の諸君、新しい角帽で初登校。村上さん来舎。

七月三十日

平さん規制又次の試験に備えるためのエネルギー補給。

七月三十一日

飯田さん本日引越し、皆に見送られ退舎。平さん早々と帰舎。暑さがやり切れなくなつて来て、小笠原君、中田君、山崎君、美恵子ちゃん、寄宿舍のトップを切って銭函に海水浴。

八月一日

平さん今日から鉄道病院に実習見習いに出勤。

八月二日

室木戸さん帰舎。今日は二、三人でプールに泳ぎに行った人が居た。

八月三日

薪割り一人割り当て八十本。一度に割ってまった人が居る様だが、大抵はもてあまして何回か分けている様だ。だんだん減って来た。

後には割りづらいのしか残らないから早く割った方利口ですぞ。

文楽の宣伝宜しく、小母さん、吉田君、角田さん文楽の切符買いをした。二十四日も後のやつを今から買うんだから熱心なものである。

八月五日

予科の諸君は相変わらずアルバイトらしいが、殆んど帰らないで残っているのは感心で、小母さんはさっぱり静かにならないとなげいている。

八月六日

小原君と仲田君のアルバイト先製パン工場から、パンの出来そこないを持って来て皆に御馳走。

八月七日

寄宿舍全部で銭函海水浴行き、少数の人不参加。

八月八日

昨日たった一日で可成り焼けた顔々。大分其々上達した相な。

八月九日

相馬帰舎。平さん又々銭函行き。

八月十日

まだまだ暑いが、盆も近づいてきたか。街にはそろそろ支度が見られる。

八月十二日

新聞には渡米選手の出発が出ていた。平さん村瀬君、宮部先生の所に訪問。御機嫌伺いに行ったとのこと。

八月十三日

お盆開き、今日から盆踊りが始まるそうだけれど、余り悩まされたくないんだ。豊平に花火大会があったが、平さん大 氏その他山崎君黒島君竹田君等が大挙して見物方々散策。大変な人出だったとのこと。花火は勿論きれいだったに違いない。

八月十四日

平さん銭函海水浴。三日前の新聞に奥村さんの遭難記事が出て一同がっくり。寄宿舍ではそれお三角君の知らで新聞以前に知ったが、奥村さんは長年山岳部の生活で熟練した技術の持ち主とのこと。その原因が注目されていたが、三角君達山岳部は死体収容に出発した。

八月十五日

本橋君はずっと休み中実習に、比較解剖教室に行って居たとのこと。寄宿舍では平さんと共に三人の実習組でいる。先ず休みを有効に使った方である。農学部今日から授業始まり。

八月一六日

奥村さんの遭難原因は後続の人が二米後ろで触れた五十貫程の大石が転がったためということが分った。奥村さんは頭に傷害をうけて即死。その時の天候、時刻、疲労状況から非常に危険な状態にあったことが確かめられた。

八月十七日

ロスアンゼルス全米選手権水泳大会に出場の日本選手の初出場第一日目の古橋の記録に全二本が驚喜した。古橋（1500m.自由型、18分19秒）工学部今日から始まる。角田さん帰舎。

八月十八日

長谷川君帰舎。プロ野球が今日から始まる。前から大変な人気だ。入場券を前の晩から列をなして買った人が居る仕事であるが。

八月十九日

寄宿舍では本日朝七時から角田さん平さんがお出かけ。ところが生憎雨しかも豪雨とあって平さんマント真黒、角田さんは白ズボンを台なしにして、しかも尚野球を見て本望を達したとか。

八月二十日

連日の盆踊りの太鼓に悩まされ、近づく工学部試験に頭を悩ませる。寄宿舍では盆踊りでは吉田君、山崎君あたり踊ったらしいが、その他ぶらぶら。停電を良いことにぶらぶらついてきた人が可成り居る次第。今日が盛んな盆踊り終わりとあってひときわ賑やか、これで助かる人も可成り居る訳。

八月二十一日

平さん試験の合間を利用してはあちこちに旅行。今日は支笏湖行き。

八月二十二日

平さん帰舎。久し振りで砂糖配給、お汁粉一人二杯以上、さすがに夏負けが取れない今日は余ったようだ。三角君山から帰ったが奥村さんの死体は搬出出来ず、山上に上げてお花畑の咲き匂う中に十字の印を立て、引き上げて来たとの事である。つつしんでご冥福を祈る気持ちで一杯。

予科で習った数学の時間がありありと思い出される。

八月二十三日

奥村さんの遺族到着。学内の各種団体の代表、学校当局者も出迎えの中葬儀場に向かった。

八月二十四日

奥村さんの葬儀、三角君参列。よりの申し出により当青年寄宿舍より200円長谷川に渡してもらおう。

八月二十五日

まだまだ暑い。日照で水飢饉農作物に悪影響。青物は特に見通し薄い。

八月二十六日

文楽来演。新聞で賑やかに写真入りで報道。寄宿舍では小母さん、平さん、幸田君、角田さん勇んで出掛ける。

八月二十八日

平さん帰省。

八月二十九日

中山梯一独唱会。相馬、小原君、村上さん聞きに行く。小生は楽譜持ちで出掛ける。さすがに日本声楽会では傑出した存在と外人までが認めるだけあって素らしい。

八月三十日

巻き割り、まだ片付かないがいつまでも散らかっているのが小母さんが残りを片付けてしまった。結局薪割りはこれで終わり。割られた手頃の薪がきれいに積まれて冬の支度は万事Ok。又決算日。小原君アルバイト終わり。室戸さんもアルバイト終わり。

9月一日

工学部試験始まる。学校に行く途中落ちること落ちること。葉が落ちる、枝が落ちる、

電線が落ちる。隣のアメさんの家ののきしたが途中で見事に折れ、電柱がその余勢で根本から真二つ、頭の上に落ちて来て大類君、山崎君大あわてで逃げた。頭の上に落ちること大枝、小枝前後三回。漸く学校について一息。

試験は思った程でなく幸先よし。台風はお嬢さんだ相な。なんと近代のお転婆なお嬢さんだ。鼻息のあらいことおびたしい。全国に相当な被害。命を落としたもの多数。お陰で寄宿舍は本日より停電の仕儀と相成る次第。

九月二日 渡米選手数々の記録と賞盃を持って帰還。平さん帰舎。停電を憤慨した平さん電話で交渉した途端電燈がついた。威なるかな。

九月三日

試験が続くと前もって準備のない小生当たり可成り苦しい。

九月四日

エルムの倒木四、五本。今日すでに輪切り作業が済んで小枝なんかはとっくに拾われてしまった。この倒木の後始末には学校当局は指して費用を使わなくてすむだろう。

九月五日

小生は今日明日試験。長谷川君は明日だけ。

九月六日

キティ台風一過して、昨今また太陽の陽射しが強い。雨より感じよし。これから雨ばかり降ることだろう。何だか日増しに寒くなる。晩遅くは静かで、そんなに暑くないし勉強に手頃。

九月七日

長谷川君試験終了して帰省。明日まだ試験ある相馬、大の両君うらやましげ。

九月八日

角田さん帰省。工学部の試験も末期の追い込み戦。

九月九日

今年は芸術関係の大規模な催しがしきりにおこなわれた。音楽関係も日斐やら何やらで相当好楽マニアを喜ばせたが今度長門美保歌劇団が来道。本日はその前触れとして、中央講堂でリサイタルを行った。舎から中田君が行った様子。

九月十日

今日は松竹座で長門歌劇団の`お蝶夫人` `ミカド` 公演。寄宿舍空は金づまりか何故か知らないが誰も行かなかった様子。オーケストラの楽員はあちこちよせ集めらしい。大類君帰省。

九月十一日(日)

工学部第二学期開始。但し本日は日曜日で学校休日。

九月十二日(月)

近頃野良猫がしきりにまぎれ込み、いずれも本橋君に食われえてしまった。

九月十三日（火）

中川さん徳島から帰舎。これで帰らないのは河村君に泉田さんだけになり、昔の騒がしさを取り戻した。

九月十四日（水）

野菜が不足で店先にも出てないとかで、小母さんは高い野菜に嘆くことしきり。今日は晩に赤飯が出たので何の祝いかと考えた所、今度の配給が餅米ばかりだったことに気がついた。

九月十六日（金）

長谷川君帰舎。北見から西瓜をお土産に担いで来た。皆で舌鼓をうつ。

九月十五日（木）

物売りの来舎しきりで、ことわるのに一苦労。

九月十七日（土）

いつ見ても感心させられるのは美恵子ちゃんクラブのママゴト遊びだ。裏庭でいろいろの道具を並べて一日中、しかも一日もかかさず夏中行事という所。小母さんは冬の支度にとっても忙しいらしい。晩のご馳走はごもくすしにしじみの味そ汁。

九月十九日（日）

秋の静かな日。皆各々何処かへでかけ、青春を願ってくるのかな。木々の枝末には早さびしさが見えはじめた。

泉田さんが帰ってこられた。また明日からはりきった舎の動きが見られることであろう。煙火親しむの時、各部屋のスタンドのもとに美しい眼を大きく開いて真理の探究にいそしむ舎生の姿が見える。松山さん新たに入舎。長谷川さん出発。

九月十九日（月）

七時より会食。サンマータイムも改められて、陽は大分高く上って来ても、依然としたねむそうな顔が並ぶ。毎晩の猛勉強のせいかもしれない。松山さんとの顔合わせ及部屋換えに関する相談あり。結局くじ引きにより、部屋の割当てやメンバーの構成が行われた。悲喜（？）交々。なかなかにぎやかであった。黒板には大掃除の催促が依然と書かれている。別に今日はその他に変わった事はなさそうだ。

九月二十日（火）

振ったり止んだりのお天気です。長谷川君帰舎。

九月二十一日（水）

昨日の雨降りとうって変わった好天。予科の運動会の為か？

先日の舎会の決定にしたがって、そろそろ部屋代えから始まった。極上等の畳を出し、ほこりの中で大ふんとうをしていた。中田さん帰省。（平さんの丹前何処へやら？）

九月二十二日

予科の大運動会と云うことで晴れて呉れたのか。運動会には快適な天候。四時頃に終わったらしい。泉田さん外泊。他変わりなし。

九月二十三日

朝からタイフーンの御襲来。夜は案の定停電。小母さん旅行。

九月二十四日

昨夜マージャン途中で停電中止やむを得なかった。無念の面々今朝張り切ってやっていた。午後、明日東西対抗のを行うというので有志は練習に行く。夕食は吉田先生の腕を振るったチキンライスは近来の傑作。小母さん豊平の御祝いも終わり無事帰舎。相変わらず今夜も麻雀で暮れ果たさんとす。

九月二十五日

秋晴れのDグラウンドにおいて東西部屋対抗の野球試合を行う。東軍の打棒大いに振う。西軍を全くせしめ十七対十二で大勝蓋し実力の相違ならんか。

九月二十六日（月）

吉田君忍路の臨海実験所に行く。明日帰る予定。

九月二十七日（火）

オルガンの練習が中々盛ん。特に新人の顔振れ多し。それがなんのためあるかなんてのは抜きにして兎も角何であろうと小生は理屈抜きに良き傾向と嬉しく思う近頃である。ウニーヶ土産に帰舎。小母さんにタワシの代りに使えと押しつけていた。武田君晩帰舎。

九月二十八日（水）

朝早く、小降りあり。其の後終日天気洗濯物が良く乾く。

諏訪根々子のバヨリンリサイタルの前売り券を平さん早々と買って来た。相当に混むことが予想されることから早く買って於いた方が良いかも知れない。聴衆の人数が限定される相だ。

九月二十九日（木）

天気甚だ良好であったが風が少し寒かった。しかし、運動にも勉強にも快適なコンディション。夕方には寒さが一寸身にしみる。小母さんが寄宿舍ノイタズラ子猫にほとんど手を焼いたとかで怒って居た。聞けば昨夜フトンの上にしてやられということだ。夕方一生懸命仕込んだが、効果はさっぱりなし。分別がつかない中はどうしても躰が必要。人間でもね。

九月三十日（金）夕刻雷を交えて混じえての夕立あり。今年最高の強雨か。そのまま夜半まで降る。寄宿舍では何が起こったか、夜八時過ぎまで居なかった小生の耳に入る程のニュースなし。

十月一日（土）

朝アルバイト。拭き清められた窓ガラスに

忽ち室内に　　の気漲る。会食後平氏トウヤ湖へ行かれる。最近ジャン盛んなり。小母さんも九時過ぎまで、明日の休みに寝過ぎさないでね。

十月二日（日）

夕方河村君帰舎。本日快適な天気、小生も歩いて来た。素晴らしきに日曜日であった。

とにかく。

十月三日

少々冷え込みの天候である。平氏洞爺湖遊覧から帰る。「どうでした」と尋ねると、ニヤニヤと満面の微笑で、手のつけ様がない。

十月四日

昨日の雨も晴れ渡り一点の雲もない澄み切った青空。空気はなま暖かい中にもひやりとする様な清涼感を与え菊の花は未だその処女の誇りを守り街ゆく女学の乙女の服も数日前より白より黒に変えられる。外は秋の薫吹く快い日和であった。舎や教室で燻っているのは勿体ない次第。

十月五日（水）

朝、河村、押切さんが友達の所でコンパがあって外泊しかえって来た。

十月十一日（火）

今日は新大の運動会で八時四十分から恵迪寮横のグラウンドで開会式がある筈であったが、学長が九時十分過ぎ、それからおもむろに壇上に上がって、三十分も首を長くして待っていた一千名の新大生を前に「遅れてきて相済まん。中島球場で野球大会があると聞いたので、そこまで行って来たが、誰も居ないので帰って来たところ、今ここであることを知ったので来た次第云々」と一応弁解してから「今の時代は酒や色に気をつける様な生易しい時代ではない。それよりもっともっと重要なものがある。それは軽薄な思想に惑わされることだ。」と意味ありげな言葉を吐いた。

十月十二日（水）

昨日に続き今日も新大の運動会なので恵迪寮前のグラウンドへ行き、体育館でバスケットとバレーを見た。午後河村氏が退舎するので忙しそうに荷物を運んで居た。夕方平氏帰舎。

十月十三日（木）

朝から雨がしとしと降って本当に秋の感じがする。舎の中は薄暗く皆んな学校へ行った後は一層ひっそりして居る。夕方遅くまで電気はつかず、ついたと思ったら間もなく停電があり、いやな事だ。晩に小母さんの部屋で、泉田、長谷川、上野、酒井、村瀬さん達が記念祭や舎の種々の事について熱心に話しあっていた。

十月十四日（金）

前日の延長か。午後七時に会合が行われて色々な事が話された。一般に現在の舎生活が騒々しいという事には耳が痛かった。

又、舎の記念祭の面白い面白くないの問題より行事一般に関する価値が大分議論された。「それは余りにも抽象的だ」という言葉がよく言われたが、僕には少しもそのように聞こえなかった。皆は抽象という言葉に余りに用い過ぎはしないだろうか。思考の怠惰よりくる言葉とも考えたくなる。或は自分の発言への不安さを覆う。著しく他人の頭にある種の眩惑を起こさせるものであるかも知れない。少なくとも僕達が凡てのかかるものを定着へ導くべきだ。Leben を認め生きる以上は、そして死ねないものには、記念祭は結局行われる



が会費 150 円、その他の余興は例年の通りらしい。その他種々の話忘却。 8号 村瀬

十月十五日（土）

午後より、巨人対シールズ軍の放送を聴く。結局 13 対 4 で巨人が敗れた。

十月十六日

早朝には著しく冷気はる。高い秋空に日指す頃合より、今日こそ格好の洗濯日和とあり手か、数多の面々お揃いで御洗濯。為に、唯一の物干し竿も一日中超満員。変転多い近頃の天候にも珍しく恵まれてた。

今日も亦ピーク制停電三十分間。今から冬季のことが思いやられることしきり。

十月十七日（月）

昨日に劣らぬ良い天気。夜は night play の実況放送（シールズ対東軍）4 対 0 . 九時三十七分、小母さんの部屋につめかけた十数人の面々の悲鳴の中に試合終了。ジャンも相変わらず盛んである。

十月十八日

昨夜真夏の夜の夢を平さんと札幌に見に行き帰ったら M 氏が久し振りでこの日記をもって来た。久し振りなので丁寧に始めから読んで見た。中々面白い日記で自己の生活を振り返って見たと同時に自分の日記のブランクに気づいて早速書き出した。なつかしいもの一つとして私は日記を愛する。

秋風と共に刻々と冬の到来が近づいてきた。どんな支障があろうとも常に転変しつつ到来するのは季節の到来である。

ジャンジャンと麻雀の大流行。

十月十九日

雨がやんで大地はジメジメ。今晚もピーク制の停電とかで消える。うらむことうらむこと。

今日も一日中雨模様であった。年次会。来賓一名もなし。辨氏に村瀬君（ボードレールの詩集に就いて）辻君（世界史の新方向に就いて）武田君司会。新入生決定、中橋君、滝中出身の由。

十月二十一日

金曜日。晴れ。夜天ぷら。折内、辻、山本の三者帰省。相変わらず何処かの部屋ではマージャンに余念がない。

十月二十二日（土）

北大の体育祭の為工学部専科を除き休日となる。幸いに好天に恵まれた運動日和であった。折内、辻、山本の三者帰省中。三角は山行き。新入舎生中林君入舎紹介する。ファイトマンらしい。他に変わりなし。

十月二十三日（日）

平々凡々。

十月二十三日（月）

珍しくよい天気であったが夕方例によって曇り。コーラスの練習始まる。第一バス最優秀（の反対）とは指揮者の言

十月二十五日（火）雨、日中晴。

暖かい秋の一日であった事は確かである。

十月二十六日（水）晴。

大分冷涼の気候となってきた。農学部の横で山本君等に会い共にテニスする。快く暖かくなる。秋は特に腹の減る時なり。

十月二十七日（木）晴

日射のさわやかな秋の日。シールズ対全日本第二回戦。此のために時間を頂戴した学部もあるとの事。近頃の一学校風景であろうか。

医師の国家試験のため予科は今日から三日間休み。午後六時半コーラスの練習。停電なし。

十月二十八日（金）曇

終日寒し。夜半より霰降りひとしお寒さがは身にしみる。マージャン党は相変わらず毎日ノルマを遂行しているらしい。三号室の得点表には新しい数字が続々書きかえられている。表をみると角田さんは矢張り寄宿舍の第一人者で大類氏と共に我が舎のジャン界の双壁をなすものである。コーラス休み。大類外泊。

十月二十九日（土）

朝アルバイト。雨上がりで、薪の搬入、半分減る。終えて昼食。午後ストーブを囲みシールズ対オール日本戦、ジャンをやりつつ聴く。ホームランを打たれ1対零で惜しくも敗れる。ジャンやるもの暮を打つもの土曜らしき風景。平氏帰省。

十月三十日（日）曇時々雨夕方より暴風雨

折角の日曜日なのに、小生は製図のため学校に行く。三角氏大洗濯のためにか夕方より遅まき乍ら大アラシ？となる。麻雀は朝まで6、7チャンに及ぶ。シールズ対全日本軍、関根好投も延長実に13回遂に敗れる。

十月三十一日（月）晴時々曇 夕方小雨

雨つづきの近頃としては今日の天気は先ず快適の部類。農学部の方々は種苗検査のため休みだったらしい。朝9時頃始まったマージャンは小生の記憶に誤りがなければ晩十時まで、その間メンバーを次々と変えて休みなしに続いた。正に今日は行楽の日ならずして麻雀の日。麻雀をやっていると腹の空ったのが苦にならないとか。小便さえもしたくない。否我慢出来るに至っては感激の至りである。

久しく懸案されていた台所、洗面所の改築修理は昨日材料を運び込んだと思ったら、今日ばたばたと整えてしまった。外はきれいになったが土台が土台だから余りもたないだろうとは小生の意見。特に台所は土台が完全に傷んでいるために傾斜が激しい。大工さん達は面倒くさいのか、修理費が安いのかしらないが、土台まではすっかり直しはしなかった。大工さん曰く。台所の窓が傾いているのは仕方がない。なる程、やはり窓の所が傾いてい

る。腐った板が新しくなったに過ぎない。

大工さん三人だが、三人共鉄道員の服を着て、一人は鉄道の帽子をかぶっているところを見ると退職した人達らしい。首を切られたので大工に転職したらしいが、いかにも手つきの良いのに驚く。いかにも自信ありげやっている。しかし、やり方の荒っぽいのに一寸驚く。本来の大工の落ち着いた作業ぶりと違って、鉄道のレールでも直してる様だ。釘の打ち方が枕木にレールをとめている様な錯覚にとられる。コーラスの練習休み。皆なかなか上手なのには驚く。演劇の練習を始めたチームがある。間もなく記念祭。

十一月一日

「乙井たち」のせい朝、赤飯。

本日も昨日に引続き舎修理、壁の修理も完了し全部終わったという訳。外に余り変わったことはなさそう。小生本日学校、アルバイトと殆んど舎に居なかったために、良くは存ぜぬが、今此の日記を書いているがの舎の空気はどうもそうらしい。(坂井)

十一月二日(水)

記念祭明日に迫る。目につく所では炊事掛りの活動。その他各人各様に頑張っているらしいが、小生も一日中学校に行っていたので詳細は知れず。午後より降雪しきり。夜コーラス練習。

十一月三日(金)文化の日

記念祭当日昨日迄の心配もどこえやら。今日は考えている暇もない。小生この一週間程消耗して、デコレーションも会場も黒島君やその他の人に頼んだが、兎も角も片っ端から何とかなって行く。二十余名気を揃えて動き出したら大したものだ。曲がりなりに一応はきれいになって先輩を迎える。心はずむ。

エッセン 豪華! 先輩は老体でありながら全て平らげて呉れた。嬉しい人だ。

コーラス 指揮者もうまかったが、歌い手は尚素晴らしかった。聴き手は知らず、声に汗して歌ったそう。

演劇 ??????

その他感想も各々ある事と思いますが、その分下に余白を残しておきましょうか。

記念祭演劇の志より

成績 団体一等 嵐の一夜 上野(医者)相馬(助手)本橋(妻)松山(社員)角田、  
中林(部下)

二等 新版八岐の大蛇 中川(尊)大類(爺)黒島(婆)折内(娘)長谷川  
(大蛇)

三等 盗人 山崎(盗人)山本(太田博士夫人)辻(夫人の若きツバメ)

個人一等 吉田 子守の赤ん坊

二等 松山 嵐の一夜の庄屋

三等 山崎 盗人の盗人

十一月四日(金)

今日よりストーブ取りつけ。寒くなれ、雪  
よ降れ降れ、家へ帰れるぞ！

十一月五日（土）

早朝からアルバイト。落葉掃くのに大童。  
松山帰省。七日帰省の予定。

十一月六日（日）

午前中は良い天気だったが午後から急に冷  
えて寒い風が外を吹き回っていた。いよいよ  
冬がやって来たんだと云った感じを受ける。

今日は一週間ぶりの寝てよう日だと思ってゆっくり床に入っていると、あまりがたがたと  
人の歩く音がするので遂に起こされた。全く静かだったら一日中寝ていたかもしれない。  
今日は朝からジャンの実習をどこかの部屋でやっているらしい。それ程面白いゲームを考  
え出した支那人は仲々頭が良いものだ。ジャン学会ではノーベル賞を与えても良いだろう。

十一月七日（月）

武田さん午前に帰舎、大根が来て午後大根の葉の新しいのを取ると早く乾くそうで皆で  
する。大抵の家では洗ってほすが、特別泥のついているのをそのままほしたので全く奇観  
である。記念祭に吉田さんがとった写真が出来て来た。全部非常に良くとれていた。夕方  
松山さんから電報が来て月曜日に帰舎する筈であったが十日（木）になったそうである。  
晩に泉田さんが明日から一日ばかり帰省するとおっしゃった。平さんと色々舎の事を打ち  
合わせしていらした。

十一月八日（火）

ゴタゴタしていた廊下が少し整理された。小母さんが沈没したとかエッセンが気になる。  
泉田さんが帰省と同時に麻雀。少しは落ち着いて寝れるだろう。平さんの寝言が聞かれぬ  
のは残念だが。火の用心！カチカチー

十一月九日（水）

長谷川、吉田両君の撮った記念祭の写真、なかなかよく出来て来た。焼きましの予約を  
取っていた。

小生、本日は暮ばかりやって暮らした。先ず、八時半から九時半小児科講義。九時半か  
ら十時半までの一時間に二局。十時半からの放射線の時間に講堂の一番上でパチリ。昼休  
みに一局。三時半から次の若松さんの講義の合間に一局。計学校で五局。

村上先輩来舎。五十年史のことにつき海藤各太郎さんと柳川秀與さんの原稿が見つから  
んと、奥田先生のきついお達しで副舎長室の書類をかきまわし、やっとその手紙を見つけ  
て小生がお届けに及ぶ。あいにく留守だった。十一月十日（木）

小生と山寄君の所へ来客あり。何れも泊まる。夕方パンの特別配給があり一人に四ヶ宛。  
三角君どうしてこんなに美味しいものが配給で余るのだろうと不思議がっていた。誰か教  
えてやって下さい。知っている人は。

昨晚、七号室で舎のエッセンの事について一寸話しあった。実は辻君の例の吹き出物？に端を発したのであるが、結論を言えば新鮮な野菜つまりビタミンそれも特にBが不足すると言うのである。歯ぐきより出血をみる人もあると言う北海道は特に冬が長くフレッシュな野菜に欠乏する事が多いし、特に寄宿舎生活ではそうなり勝ちなのである。もっとお互いに気をつけ合って不足がちなカロリー、ビタミンについて考えていたほうがよいと思った。と同時に、小生近頃考えている事について述べると、小生実は昼は殆んど学校ですまし、舎の他の人々の昼のエッセンというものにつき大して知っていなかった。所が、最近見たり又聞いたりした結果、全部がそうでは勿論ないが、大半の方々が昼は殆んどありあわせのもの例えば納豆、テンブラはよい方で、味噌、塩などでばかりで毎日をすごしている人が多い事を知って、実に驚いた。ポリウームは相当あっても大部分澱粉質ばかりなので、カロリーは大体必要近くは補充されはいるものの最も大切な又日本人に不足がちな脂肪が大いに欠乏の状態にあり、且つ、今述べたビタミンに至っては殆んど考慮が払われていない様に思われた。

舎のエッセン状態は日本の一般的状態であると云うもののお互注意し合ったならば科学的なものが得られると思う。

十一月十一日（金）降霜

（早朝）戸外にては寒気がそぞろ肌身に染む候になりけり。寒さに向かう折柄、舎内には朝寝の権威増加すると共に炊事場ストーブの団欒時間が登校時間をオーバー（意識的に？）することしばしば。

十一月十二日

北海道の長い冬も今やそのとびらをひらかんとしています。木枯らしが吹いたり霜がふったりだんだん私達のまわりはその衣を変えて行くようです。まもなく真白な雪でおおわれた白銀の世界になることでしょう。そしてスキーをたのしむ御人は冬山に出かけて行く日も近い事でしょう。

また窓外で激しく降る吹雪を見つめながらストーブをかこんでお話を楽しむ日も近いでしょう。いやいやまだ近いものがあります。新大生諸君よしけんがあるそうです。十日からね。

さて本日は土曜日。夕方ピンポンにたわむれる方は中川、角田氏。巴里祭を見て来ましたがすばらしい映画だと思えます。革命記念日を中心としたフランスの普通階級の生活が心理描写が大変上手に現れておりました。

十一月十三日（日）曇

今日は大した寒くもなく静かな穏やかな日曜日だった。終日ピンポンの音絶えず。舎のカメラマンの記念祭当日の労作が各室へくばられる。植物園の木々もほとんど葉を落とし寒々としている。

十一月十四日

学校から帰ってきてみるとはや部屋にはストーブの火がたきつけられていた。ほのぼの

と暖かい雰囲気がかもし出されている。

十一月十五日

一面全くの銀世界に変わってしまった。夜街灯のあわき光に照らされてクッキリと映し出された光景は北国の特色ある景である。北国に住むものにとって何か心惹かれる思いがする。

十一月一六日

今朝は近年に比べて寒波の到来が早い。雪は12センチ、3時の気温はマイナス4度。朝食飯と味噌汁、夕食飯、味噌汁、納豆。今十二時であるが全く空腹である。

十一月十八日(金)

相馬氏深川へ。旭川方面は可成の降雪に汽車のダイヤ混乱しているとか。青函連絡船も嵐の為に運休止たるものありとか。ものすごい風であった。`火の用心`燃えたら帰省するだけの保険料しか無いそう。

十一月十九日(土)

9時半頃起きて、台所に行ったら小母さんにつかまり、おサツの配給を取りに行く。さすがに冬。大変寒い。リュックサックに一杯のおサツの何と重たかったことか。相馬氏四時十五分の急行で大阪へ。中村氏帰省。今日から石炭二杯。ジャンジャンじゃんをやっている。夜中十二時過ぎまで?号何やら語られていた。ストーブがつけられてから各部屋とも夜更かしするようになったようだ。

十一月二十日(金)

帯広方面はマイナス14度まで気温が降下したとか。冬であると感じさせられる。中林氏帰省。平さんの姿が見えないと思ったら帰省したそう。相変わらず何処かの部屋でマージャン。

十一月二十一日(月)

日誌を隣の部屋に廻す積もりでいたら忘れてしまった。また書かねばならなくなってしまった。4、5日前に降った雪がそろそろ解け出して、路は非常に汚い。前を歩く若い女の方はしきりとおみあしにばかり気を取られて居た様だったが無理からぬこと。ポケット聖書何とかで農学部の大講堂で映画と講演の会があったので行って見た。天然色映画は非常に面白いと思ってみたが、会が終わる時に少々話があったから、未だキリストを知らない方はこの場で直ちに信ずる決心をして下さいと云ったのはのには可成驚かされた。御念入ったことに、その様に決心なさる方は残って吾々とお話を致しましょうと云った時には奇異な感じをさえ与えられた。信仰というものが、その様に簡単にえられるものかであるならば:::。

十一月二十二日(火)

曇り勝ちながら暖かい一日であった。

明日は休日なので皆のんびりしている。

十一月二十四日(木)

曇り、ウスラ寒し。細川さんの子供さん見えなくなって一騒ぎ。

十一月二十五日（金）

新制大学の人は今日朝から休講、他は午前中講義あるとは無慈悲？相も変わらずジャン狂達やる。

十一月二十六日（土）

九時半友人に寝込みを襲わる。猶四、五人分朝食ある。

午後、中田、黒島、村瀬の諸氏とフランス名画を見に公民館に行く。

夕食後、ピンポンをやる。今日は三角、小母さん、黒島、山崎の諸君一流メンバーで4時間程かかりジャンをやる。

相馬君帰舎

十一月二十七日（日）

曇り。一日中ピンポンの音賑やか。此の頃は新大予科の共試験が近づいたと見えてジャンのイレベンションに応じない人が多くさびしい限り絵ある（但しN，M氏は例外）。

十一月二十八日（月）

朝からマージャン盛ん。終日比較的天気良好。

十一月二十九日（火）

この天候がくずれたらきっと本格的な冬が襲うに違いないと思われる。今のうちは大変結構であるが後が甚だ気になる。今年は雪が多いとの予想だからいづれあつという間に銀世界になるだろう。札幌では雪がないが過日の雪で深川、旭川は三尺以上の大雪で日本ユースの特種になっていた。上り列車が八時間程遅れダイヤが大混乱に陥った。札幌の市民は大抵知らないで過したらしい。

十一月三十日（水）

十一月の定例月次会。午後五時半より会食、六時月次会。先輩に多数連絡したが来舎したのは逢坂さんだけ。辨士は中林、本橋、三角の諸氏。題目は伸長せるアメリカのテレビ（中林）比較解剖四方山ばなし（本橋）森林と温度について（三角）で終始活発に行われた。逢坂さんに札幌脳学校時代のことについて面白い話を伺う。エッセンは五目ずしなどボリュームはあった。

十二月一日（木）

最近再びピンポンが復活して来た趣がある。これから冬になればスキーと相俟って益々盛んになるだろう。比較的寒い朝であった。

十二月二日（金）

平凡な初冬の日。新大十日から予科7日から二学期の試験。

十二月三日（土）

一週間程前の新聞には今日根雪だとの予想がのっていたが朝方の寒さが初冬をしのばすに過ぎず路行くに長靴が少し気おくれである。暮れ降りたるも小雨とは。名スケーター明日の結氷が心配そう。

日曜入荷する筈の石炭七トン二万六千円の現金払いがききすぎたか運搬日を少し値切ったのに早速運んでくれるというサービスぶり。お蔭で舎には誰も居らず角田、三角氏不在舎生の感謝大いなるものあり。映画のためか頭がすぐれず勉学に苦しむ。米の配給。夜一号にて雀鳴く。

十二月四日（日）

大工さんに号室の壁修理。パンの配給。未来の夢青年寄宿舍の設計図到着。諸舎生の意見うながす。食堂の小さき事を論ずる声聞く。夕刻ダブルス戦たけなは日曜か人出多し。石炭よく燃ゆ。

十二月五日（月）

晩寄宿舍の予定図を中心に皆でつつく。まあ一〇年内に建てばというところか。十二月というのに雨・来週から合宿というのに。

十二月六日（火）

本日は風が相当に強く吹いて寒さが一段と身に感じた。

予科生は明日から学チンは土曜から試験で皆大いに勉強している。中川氏は明日帰国の故に着々準備を開始中です。十二月もすんで又新しい1950年を迎える日も近いことだろう。宿舍の住人三角氏のなまえが道新に出ていた。我が舎の誇りならんとぞ思う。

十二月七日（水）

二、三日ぐづつき始めた天気。今朝は瞬時にして冬将軍の到来の候。昨晚の冷えが手伝ってか、正しく急転直下の冬景色。气象台も`まず根雪という訳`というから誰しも信用せざるを得ない訳。降雪量10糎。

目前、残すは二日のみと迫った試験のラストの追込み戦。

本日多数の御見送りで中川さん郷里の四国へと旅立つ。トップの帰省ウラメシキかな。

とはオール舎生の言葉なるや。

十二月八日（木）

吹雪の為寄宿舍のWCはついに凍結せり。まことに北海道でなければ見られぬ光景。あんまり眺め良いけしきでもないがね。

角田横綱（ジャン界における）地方興行のため帯広に行かれた。おかへりは一月下旬頃。土曜日は吉田大関（ピンポン界における）がはるばる九州に御出発。ヨカチンしけんもうすぐ終わり。新大はこれから始まり、三角氏は山へ行くのでせつせと御用意怠りなし。アアアしけんイヤダイヤダイヤダイヤダ。

十二月九日（金）

舎長奥田博士は付属医院長に選せられた。

十二月十日（土）曇

多少暖かい日だった。予科試験修了。新大の面々も日曜を控えて一息と云った所だろう。どこかの部屋からジャズ音楽が聞こえた。吉田さんハルバル日本縦断の途にのぼらる。夜食はオハギ。これを食べたらもうひとふんばり試験勉強でも頑張ることですね。



十二月十一日（日）雲

ベット生試験休みで、あるものは映画又あるものはジャンにふけている。明日の事は知りません。しかし試験中にあそぶのは何となくいやなものです。松山さん帰舎。吉田さんも今頃はどこらへん？

十二月十八日

昨夕小原帰舎。しかし、現在舎生は一号大類、上野、二号相馬、中田、五号なし、七号山崎、十一号本橋、武田、折内、十二号小原の諸氏。明朝は大類、山崎が帰省。小原、中田は外泊の由。舎も残ること五人となる。少しく感冒が流行っているようだ。

十二月十九日

大類、山崎君帰省。

十二月二十日

終日身を切る様な寒気。小原君配給の餅米の分け前を帰る前に処分せんとして、小母さんに分けてもらう鍋の中で、スリコギで盛んに餅をついてお汁粉を作ってひとり悦に入っていた。

十二月二十一日

官費旅行としゃれた中田君本日岩見沢、滝川、留萌を股にかけた出張を終えて帰舎。

本日夕方になって一段とはげしくなった雪のために列車が可成り遅れたんだ相な。外に出ても10分も歩こうものなら耳の感覚がなくなり鼻が痛くなる。

十二月二十二日

朝、泉田さん帰舎。今日は冬至で昼は冬至のお汁粉が出る。橘君アルバイト。クリスマスが近づいてラジオはクリスマス音楽で一杯。何時まで聞いていても飽きない楽しいメロデーの数々。敬虔なしかも親しみに満ちた旋律。何と温い親しみに満ちた安堵の感をおこさせるクリスマスの雰囲気、しかも身近に思われるクリスマスが何となく自分のものではない様なかけはなれた感じがするクリスマス。日本のクリスマスはキリストが欠けているとは新聞等ばかりの感じではない。

十二月二十三日

寒い毎日。寒さも人によって感じ方が違う。寒暖計ばかりが寒さを示す唯一のものではない。時間の存在についての哲学の問題に対する或る哲学者達の述べたと似た様な事が寒さについても云われる様な気がする。同じ場所、同じ時、何人かの人が感じた苦しみの程度は或る人が多くて他の人は少ないことがあるだろう。他の時、他の場所ではそれらの人の感じ方は逆になるかも知れない。寒さについても相対的なものが在ることは否定出来ないだろう。防寒具の相違、栄養摂取量の差も寒さに対する個人差を作る。その外に在る人は他の人より遥かに多い人生苦によって遥かに多い寒さを感じず。暖かい環境に在る人は朗な所謂温かい感じに浸っている。冷たい人生苦に他の人は寒さをひしひしと身に感ずるのだ。

十二月二十四日

クリスマスイブ。新聞の何とか欄に`日本のクリスマスにはキリストが居ない`思わず吹き出す。全くその通りだからだ。`キリスト教なんて 俺は無心論者だ`と云っている人がキリストを祝するクリスマスに街にふらふらとさまよって、やはりキリストを祝わないクリスマスデコレーションに感激して、何だかクリスマスの食卓にさんかしたくなったりする。`一人前になったらクリスマスケーキを作って家族と一緒に葡萄酒を飲んでインテリらしく振まわう`なんてセンチメンタルな事を考えるに及んでは更に笑止。お盆に盆踊りを見に行く様に一年中たった一度キリスト教の門を叩く言いかえれば一寸寄って見たらキリスト教はとても面白い御趣意のたくさん出るもんだと云うのでは困るんだ。たとえ信じないとしても上の様な単純なものでは批判出来ない。音楽でもそんな事が云える。さっぱり分らないという事で対象物の価値を疑って自分の能力を棚上げにしている。`自分が分らないと云くって他人も分らないと思うと間違いだ`とは苦言だ。とかく人間は自分の理解出来ないものについて他人の理解を疑う悪癖がある。`とにかく音楽なんて云うものは `なんて簡単に云う人の音楽理解程度は笑止千万。理解すればする程、誰でも話が慎重にならざるを得ないものを音楽は持っている。

十二月二十五日(日)

クリスマスの晩札幌教会のキャンドルサービスに出席する。メンバーは平、泉田、武田、中田、相馬、蠟燭を買って出かける。クリスマスを満身に過ごした。

十二月二十六日(月)

中林君アルバイト。

十二月二十七日(火)

朝五時から餅つき開始。三角君大奮闘。初つきは相馬君、後ちょこちょこことついてごまかしたのは上野さん、泉田さん。一臼ついたのは誰だったのかな。折内君に武田君かな。中林君は餅つきにならず、餅につかれて専ら火夫の役をつとめる。会取りは泉田さん、折田君。それに朝四時から大奮闘の小母さん。

十二月二十八日(水)

昨日の餅腹持越し。相馬アルバイト。中林君ラジオのアルバイトで忙しい。

十二月二十九日(木)

正月まで餅食い止め。相馬アルバイト。

十二月三十日(金)

相馬アルバイト。

十二月三十一日(土)

晩五時に打ち合わせて会食ならぬ快食。小母さんが配給の砂糖をどっさり使った(?)羊羹、キントンの口取りに其の他ご馳走多数、年越しのソバならぬ五目ズシ、ダシの良いお吸い物。狭い部屋でこじんまりとした年越しだった。

昭和25年(1950)一月一日(日)

静かな静かな正月でした。寝ても起きても誰にも叱られないお正月でした。昨夕遅かつ

たので元旦早々皆お寝坊です

十二月二日（月）

泉田さん、上野さん、三角君、中林君で昼宮部さんの所に御年始、其の後晩に奥田さんの所に遊びに行く。大変面白かったとの事。一人一芸で何がしかやらせられたという。上野さんが歌を歌った相だ。ききたかったな。